

チャンダル・カント（インド）

私はインドから来ました、ウッタル・プラデーシュ州の州災害管理委員会で洪水対策のプロジェクト・エキスパートを務めてる、チャンダル・カントと申します。今回、ADRC の客員研究員プログラムに参加できることを光栄に思います。私は災害管理の修士号と機械工学の学士号を持っており、災害管理の分野で豊富な経験を積んできました。インドにおいては、これまでのキャリアを通じて、以下のような様々なプロジェクトで重要な役割を果たしてきました。

- ✓ 州レベルでの統合警報ポータル運用開始
- ✓ 州レベルでの洪水発生報告と準備活動の指導
- ✓ 統合型の州緊急オペレーションセンターの設立
- ✓ 事故報告のための「RAHAT アプリ」の開発
- ✓ COVID-19 に対する対応調整
- ✓ 2021 年氷河湖決壊（GLOF）における州代表としての救助および救援活動の調整



特に、事故報告のための「RAHAT アプリ」の開発に積極的に携わってきました。また、インド政府の災害対応チームの一員として、洪水の被害を受けた地区で視察を行いました。

インドの特徴としては、地理的気候や社会経済的条件が異なっているため、洪水、干ばつ、サイクロン、地震、地すべり、雪崩、森林火災など、さまざまな自然災害や人的災害の影響を受けやすいです。近年では、風水害の頻度と激しさが増すとともに、事故のような人為的災害も増加しているため、災害リスクの軽減と管理が急務となっています。

一方、日本もその地理的および地形的特徴から、台風、集中豪雨、地震、火山噴火、津波などの自然災害に頻繁に見舞われています。日本は、災害管理システム、国土保全、気象予測技術、災害情報伝達システムの開発などで大きな進歩を遂げてきました。日本における災害被害の軽減は、社会としての対応と脆弱性を緩和する能力の証であると言えます。

日本滞在中は、日本の災害管理システム、特に都市計画とインフラ整備などについて学びたいと思っています。このプログラムを通じて得た知識や経験は、インド帰国後にも応用できると確信しています。客員研究員プログラムに参加する機会を与えてくださった ADRC とインド政府に深く感謝します。